

# 大阪府富田林・河内長野の火山岩産出地と 嶽山龍泉寺西採集の石器

山口 卓也

## 1. はじめに

近畿地方中央部の後期旧石器は、二上山北麓に産出する火山岩類の一つ、サヌカイト（瀬戸内火山岩類ガラス質安山岩）を主要な石材としている。一方、近畿地方中央部から和歌山県北部には、二上山以外の第三紀瀬戸内火山岩類の小規模産出（沢井・佐藤1989）もあり、考古学的な研究対象として、どのような石材が産出して、また本当に石器になっていないのかについて、十分な踏査検証が行われていない。

筆者は、佐藤隆春の紹介した火山岩産出地（佐藤1985）のなかで、現状確認が困難な岩脈などを除いて溶岩や岩床、岩頸など記載されているものをできるだけ踏査したいと考えた。意図は、後期旧石器時代に、二上山北麓以外の石材が使われているか、二上山以外の石材が使われるとすれば、どのような石器群なのかを解明することにある。

さらには、石材開発の違いから、前期中期旧石器時代遺跡が近畿地方中央部に発見できる可能性を知るためである。

今回は、大阪府富田林市・河内長野市周辺の踏査（図1）を行い、石器となる可能性のある石材の産出を確認したので、これを紹介したい。

## 2. 富田林市嶽山と汐ノ宮の火山岩

富田林市と河内長野市境周辺の小規模火山岩産出地を踏査した（図2）。

嶽山火山岩は角閃石輝石安山岩の溶岩で、花崗岩基盤上の甘南備累層（二上層群原川累層相当花崗岩礫を含む礫岩層）を覆っている。嶽山火山岩は、本来暗灰色の塊状または板状節理の緻密だが風化して灰褐色～白色となっているとされる。踏査では、嶽山山頂周辺及び北尾根（図1-A）で同様の火山岩が分布していることを認めた。龍泉寺の東斜面では、花崗岩円礫と共に暗灰色の流理が縞状に現れた安山岩（サヌカイトイド相当）や角閃石斑晶の目立つ黒色安山岩など新鮮な火山岩転石が存在している。二上山北麓春日山産出ガラス質安山岩（サヌカイト）に類する緻密な石材は発見していない。

嶽山西方の河内長野市境となっている石川川底（図1-B）に露出する汐ノ宮火山岩（写真2）は顕著に柱状節理が発達し、大阪府レッドリスト地形地質版ランクCに指定されている。この火山岩は、かんらん石輝石安山岩の溶岩で、甘南備累層のザクロ石黒雲母流紋岩や無斑晶安山岩の角礫を含む礫岩層を覆っている。踏査では、汐ノ宮火山岩の柱状節理部分は、石基がガラス質ではあるが微斑晶が大きく節理も強く、石器



図1 周辺地形図

石材には不向きであろうと思われた。一方、汐ノ宮火山岩に覆われた甘南備累層に貫入した黒色無斑晶安山岩があって、これが一部ガラス質であることを認めた。類似の黒色無斑晶安山岩や暗灰色の流理が縞状に現れた安山岩（サヌキトイド）も、汐ノ宮石川東岸から横山方向、嶽山から伸びる山裾切通しや住宅の石垣などに積み重ねられ（図1-C）、場所によっては露地露頭（写真3）している。

踏査の所見では、嶽山から汐ノ宮にかけて従来知られる嶽山火山岩・汐ノ宮火山岩と異なる無斑晶（ガラス質）安山岩礫が含まれていると推測された。今後、石器石材になりえる火山岩を探るとき、嶽山火山岩や汐ノ宮火山岩とともに、その周辺の層群の露頭も注目したい。その他、佐藤によれば、南の金胎寺山周辺には、火山岩脈が複数貫入しているとされるが、未踏査である。

### 3. 富田林市嶽山龍泉寺西採集の石器

踏査中に、嶽山の東斜面、龍泉寺境内からすこし西の緩傾斜（図1-D）で若干の石器類を採集した（写真4）。

台形様石器（図3-1）は、表面が白い風化面で覆われた緻密な黒色ガラス質安山岩（サヌカイト）製である。瀬戸内系横長剥片素材ナイフ形石器の背部加工とは異なり、幅広の剥片を縦に半折しており、折断加工の一部がヒンジとなっている。風化面が「粉っぽい」特徴がある。単独の採集である。

灰色の流理構造が流紋を縞状に観察できる安山岩（サヌキトイド）製の石器のうち図を示した1点（図3-2）は、一側縁に削器作業部を作出するが、3面は折断または折損し、本来の器形は不明である。あるいは流理構造で阻害されて伸展せず破断したものか。写真の残り4点も、石核または大形剥片に加工を施したものが破断したものと思われ、顕著な流理構造のある同種石材に組織的な石器生産に限界があったことを示している。このような石材は、嶽山・横山から汐ノ宮周辺で転石として広く認められ、また二上山北麓の春日山で「サヌカイト」と同時に産出するサヌキトイド石材に類似する。

嶽山龍泉寺西の石器類には、嶽山山頂にある板状節理の発達し、風化の進んだ角閃石輝石安山岩は使用されていない。



図2 嶽山周辺地質図（沢井・佐藤 1989）



写真1 嶽山遠景（西から）



写真2 汐ノ宮火山岩露頭



写真3 黒色無斑晶安山岩（横山）



写真4 嶽山龍泉寺西採集の石器類

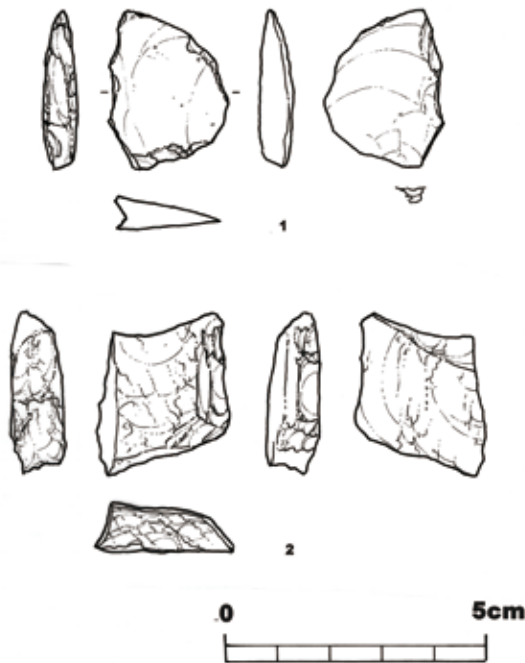


図3 嶽山龍泉寺西採集の石器類

#### 4. 河内長野市寺ヶ池周辺の火山岩

河内長野市の寺ヶ池火山岩(巽他1981)は、天野川支流の小山田町丘陵西崖に露頭する(図1-E)、板状節理が発達した橄欖石古銅輝石安山岩である。「暗黒色緻密な岩石」「ガラス基流晶質」(佐藤隆春1985)とされていることに注目し、佐藤とともに周辺踏査を続けている。

周辺は、六甲変動後半期、南北方向に隆起した丘陵で、寺ヶ池(図1-G)は、丘陵間をせき止めて形成されていて、池の東西両岸には固い大阪層群下部が露出している。

池の水面は平時標高135m程、東側は標高150m程の住宅地、西側は、寺池台住宅地のある丘陵となり、標高160mが最高部となる。

踏査の結果、東岸の大阪層群造成土から縞状

流理の強いサヌキトイドに類した古銅輝石安山岩礫を僅かに採集した。河内長野市の文化財包蔵地地図では、東岸にサヌカイト製縄文時代石器類が散布するとされ、市立ふるさと歴史学習館が収蔵するものは、二上山北麓産出と思われるサヌカイト相当黒色ガラス質安山岩製石鏃、削器などである。

西岸南半では、一定の範囲に限って、橄欖石古銅輝石安山岩やサヌキトイド相当のもの、発泡溶岩など、さまざまな安山岩の礫や破片の散布を認めた。多くに基盤花崗岩由来の捕獲鉱物が含まれている。

西岸で採集した岩相の異なる安山岩片には、加工が施された石器と考えられるものが僅かではあるが存在している。かなり慎重な表面踏査を行ったが、サヌカイト相当石材の石器類は発見していない。今後、山口と佐藤が連携して、それらが人工品であるかどうか、所属時期、埋蔵環境などについて検討を行いたい。

寺池台住宅地(図1-F)は、1970年代に堺の日本製鉄関係者のために開発された住宅地であるが、もとは果樹園であった。開発時、標高160mあたりの高所を掘削したところ、「固い板石」が露頭し、均して宅地にするのが難工事となったこと、その板石を崩して住宅地の石垣にしたとの情報がある。現地を確かめると、住宅地にサヌキトイド相当の安山岩で積まれた石垣があり、僅かではあるが二上山北麓春日山産出サヌカイトに似た黒色ガラス質安山岩が含まれている(写真5・6)。また、寺池台緑地の造成土中には、大量の橄欖石古銅輝石安山岩礫や板石が含まれていて、一部に石器石材選別のための「試し割り」剥離痕を残すものがある。

寺池台の北方、南希望ヶ丘住宅地標高145mの宅地造成地面で、大阪層群整地面からサヌカイト相当の黒色ガラス質安山岩の大礫を数点採集した(写真7・8)。寺池台の高所から北方向には傾斜があって、同種石材が周辺に流下している可能性がある。

なお、踏査をともにした佐藤から、寺ヶ池火山岩は発見時に橄欖石輝石安山岩として記載されていること、いわゆるサヌカイトと異なる火山岩であるので、産出については溶岩露頭で確かめる必要があり、周辺を精密に調査しないといけないとの教示をいただいている。寺ヶ池火

山岩産出状況と岩石学火山学の新知見については、佐藤から別途報告される。

#### 5. 近畿地方中央部の非サヌカイト小規模ガラス質火山岩産出地をめぐって

二上山北麓の黒色ガラス質安山岩(サヌカイト)は、近畿地方の石器生産における支配的石材であり、後期旧石器時代ナイフ形石器文化段階には、瀬戸内系横長剥片剥離伝統による石器生産の異所展開が構造化して顕在化することで、その分石器文化と分布域が一体となって構造化した。その圧倒的な質量は、近畿地方中央部をすべて覆ったように思われてきた。

しかし、西宮市甲山山頂遺跡(山口2023)で台形様石器群が甲山黒色ガラス質安山岩を石材としているように、今回踏査報告をした嶽山や汐ノ宮、寺ヶ池など小規模石材産出地に産した石材でも、特定の段階や状況下で利用される可能性があるのではないかと考える。小規模石材産出地を開発した石器群は、原石産出地への回帰でその起点を共有しないので、二上山を核として成り立つ後期旧石器時代瀬戸内系旧石器と差異があるかどうかを確かめる必要がある。目視観察での石材判定は困難であるが、すべて二上山産出と決めつけるのは危険であると考えられる。

近畿地方の旧石器を、非サヌカイトの小規模ガラス質火山岩まで広く探索を続けるなら、そこで見出される石器群は、ひょっとすると技術系統軸・時間軸を異にすることも考えられる。前期中期旧石器時代の石器群は、火山岩原石産地の遡上開発を達成せず、構造化した石材供給を組み込んだ遊動領域を持たないのであれば、非サヌカイト火山岩の石器群は前期中期旧石器時代遺跡探索の手がかりとなるかもしれない。



写真8 大阪層群中の黒色ガラス質安山岩



写真5・6 石垣の黒色ガラス質安山岩



写真7 大阪層群中の黒色ガラス質安山岩礫

これからも、近畿地方小規模ガラス質火山岩の産地の踏査と記載を続けていきたい。寺ヶ池東岸採集石器の観察をさせていただいた河内長野市立ふるさと歴史学習館に感謝いたします。

#### 引用・参考文献

- 河内長野市文化財包蔵地：  
[https://webgis.alandis.jp/kawachinagano27/webgis/index.php/autologin\\_jswebgis?u=guest\\_bunkazai&ap=jsWebGIS&m=2&li=1](https://webgis.alandis.jp/kawachinagano27/webgis/index.php/autologin_jswebgis?u=guest_bunkazai&ap=jsWebGIS&m=2&li=1)  
佐藤隆春 1985「大阪周辺から和歌山市東方の新第三紀火山岩類」『瀬戸内区の特性』  
沢井誠・佐藤隆春 1989「瀬戸内火山岩区一設楽と二上山を中心に」『アーバンクボタ』第28号  
巽好幸・石坂恭一 1981「Existence of andesitic primary maguma: An example from Southwest Japan」『Earth Planet.Sci.Lett.』53  
山口卓也 2023「西宮市甲山の黒色ガラス質安山岩と甲山山頂遺跡の旧石器」『ひょうご考古』第19号

関西大学非常勤講師